

KAWAI+OKAMURA
かいおかむら

ZHAO Tongyang
趙彤陽

ZHDANOVA Alina
ジダノヴァリーナ

ZHANG Jiayuan
張嘉原

KURACHI Tomonosuke
倉知朋之介

YONEMURA Yuto
米村優人

R E M A

2026年4月1日(水)-19日(日) 10時-17時 京都芸術大学 ギャラリー・オーブ

のちの である

のちの

「のちの_____である Pre-X: Before we knew what to call it」は、京都芸術大学の卒業生を中心に、大学院生と教員を加えた7組のアーティストによる展覧会です。本学は2027年に学園創立50周年を迎えます。「京都文藝復興」「芸術立国」という理念のもと、芸術を通して時代と向き合ってきた歩みを踏まえつつ、本展ではあらためて《つくる》という人間の根源的な営みに視線を向けます。叩け禍を経た社会の寛容や、自動生成AIの台頭がもたらす情報環境の急激な転換の只中で、それでもなお、わたしたちが自らの内発的な衝動から思考を起こし、身体を介して空間にわたちを立ち上げる意味は何か。その問いに応答する複数の現在形が、本展で交差します。写真、映像、インスタレーション、立体など、多様なメディアを通して、感覚と空間、認識と記憶の関係をあらためて問い直す場となるでしょう。参加アーティストは、それぞれに明確な方法と持続的な探究を軸に表現活動を積み重ねてきました。独自の軌道を描き始めている者もいれば、研究と制作を往還しながら射程を広げつつある者もいます。いずれも可能性の提示にとどまらず、具体的な実践の蓄積によって確かな存在感を示している点で共通しています。タイトルとした「のちの_____である」という語法は、本来、後世から現在を振り返る構文ですが、その形式を未来が確定していない段階にあえて重ねています。ここに並ぶ実践が将来どのように語られるのかは、まだ_____です。評価や物語が定着する以前の、しかし確かな強度を帯びた制作の断面を示すことに、本展の意義があります。無数の像や言葉が瞬時に生まれ流通し消費される時代にあっても、《つくる》という営みは効率や機能といった尺度では測れない領域を備えています。会場に身を置き、作品の前で立ち止まり、言語に収まりきらない感触を受け取りながら想像をめぐらせる——その時間が、それぞれの「のち」を考える静かな足場となることを願っています。川合匠（ギャラリー・オーブ運営委員会委員長／京都芸術大学芸術学部情報デザイン学科教授）

ジーン・ワグナー

1992年11月7生まれ、北海道育ち。映像作家、キュレーターとして主に京都で活動。2015年京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）芸術学部情報デザイン学科卒業、2025年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士（美術）。人の記憶や人格、それらを形づくる社会的背景に関心を抱き、個人の語りを通じて様々な国や街でリサーチを行っている。忘却と想起、記憶の再構築などをテーマに、人が語る日常や記憶を題材として、自作の架空言語やアニメーションを用いた映像・インスタレーション作品を制作、鑑賞者自身の記憶や感覚と向き合う体験を提示している。また、ワークショップや対話的な制作プロセスを通じて、他者との関係のなかで立ち上がる記憶の在り方にも目を向けている。主な展覧会に「ふれる、ほどける、トン！」（広島市現代美術館、2025）、「Fictitious」（Nproject、2025）、「言葉のない手紙」（ソフトビジュアルセンター、2026）、「Vidéo Club Kyoto」（FRAC Champagne-Ardenne、フランス、2023）。アーティスト・イン・レジデンスは情報科学芸術大学院大学〈IAMAS〉（岐阜、2025）、Quartier am Hafen（ドイツ、2022）他。キュレーションに「Before it becomes a line,」（アートスペース、京都、2025）などがある。「京都新鋭選抜展」（京都文化博物館、2021）最優秀賞、「CAF賞2015」最優秀賞受賞。



ジーン・ワグナー 《記憶の沿岸》2022
ビデオインスタレーション 5分26秒 サイズ可変



REMA

2019年京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）芸術学部美術工芸学科卒業。2021年同大学大学院芸術研究科芸術専攻（修士課程）美術工芸領域映像メディア分野修了。REMAは、現代を生きる個体としての生の違和感や役割意識をめぐる問いを、自己のイメージを媒介とした作品群を通して探求している。初期には化粧や衣装といった身体の装飾的要素を取り込み、演出された自己像を通して女性性のあり方を問うてきた。その後、表現はより抽象的なかたちへと変容し、ドメインの焼灼という物理的行為によって、痕跡として素材の内部に刻み込まれていく。時には大きな像として立ち現れ、異物性と原始性を併せ持ちながら、鑑賞者を時間や言語を超えた感覚の領域へと誘う。2025年には大型彫刻《The Woman with Terrestrial Malady “LEM”》を大阪・関西万博で発表。同年、ANTI MORAL SCHOOL京都浄土寺スタジオを設立し、創作と交流の新たな場の運営にも取り組んでいる。主な展覧会に「EXPO2025協賛パブリックアート」（大阪・関西万博、2025）、「ART SCRAMBLE」（グランフロント大阪、2024）、個展「neo BOTANICAL」（阪急うめだ百貨店、2023）、グループ展「Sleeping Face, Splitting World, Stick Needles Into the Eyes 眠る顔に針を刺すとき」（ICHION CONTEMPORARY、大阪、2026）など。2024年「東京ミッドタウンアワード2024」優秀賞。

REMA 《The Oldest Milestone in the Future》2024
彫刻 砂、エポキシ樹脂、鉄 h1400 w800 d800

米村優人

1996年大阪市生まれ。2019年京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）芸術学部美術工芸学科卒業。美術家。人智を超えた圧倒的な存在や、個人的経験に基づく特定の人物への憧れから、粘度、石、FRPなど多様な素材を用い制作している。物質の関係性によって独自の物語を立ち上げつつ、痛みや恐れ、憧れ、畏怖の念等の内的感情も内包することを模索。その探究は対象の存在感を作品空間へ引き出し、物質性と身体性が交差する地点に立ち現れる情動の輪郭を探る試みでもある。またリンゲ語で「彫像」を意味する語を基に名付けた《AGARUMAN》シリーズでは、彫刻の記号としてのヒップな在り方を思索している。近年の個展「BAROM（あるいは幾つかの長い話）」（京都市京町美術館 ザ・トリアングル、2023）では、境界的存在としての“人々”を再定義する空間を構成した。主な展覧会に「米村優人のウニバーサル」（EUKARYOTE、2024）、「師走の喫茶」（TAKI／焚、2025）、「don't dramatic serenade」（豊田市美術館 庭園、2025）、「あいつらのこと（M・seaside）」（葛西臨海公園、2025）、「KUAD ANNUAL 2019 宇宙船地球号」（東京都美術館）など。美学者藤本流位とのユニット「John gan jihn」としても活動している。

米村優人 《絶縁（我がために）》2024
インスタレーション 人工樹木、靴下 サイズ可変



倉知朋之介

1997年愛知県生まれ。2020年京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）芸術学部情報デザイン学科卒業。2024年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。日常生活のなかにある「可笑しさ」を帯びた存在や状況に焦点を当て、映像を中心に、インスタレーションやパフォーマンスとして展開する。倉知の作品では自らが主演・演出を担い、TVドラマ、MV、映画といった広く共有された娯楽の形式を参照しつつ、あえて誇張された身振りや、即席的につくられた衣装・小道具、よく分からない言語やリズムを伴う発声によって、意味/無意味の境界がずれる瞬間の笑いを立ち上げる。日用品を取り込んだ舞台装置で日常世界を揺るがせと変容させ、エンタテインメントの約束事そのものをずらしながら、人間性や娯楽の成立条件を実験的に問い直している。主な個展に「THE NEVER ENDING BUILDING」（越後妻有里山現代美術館MonET、2026）、「Okra Neighbor」（BUoY、東京、2024）、「ラズベリーフィールド」（Token Art Center、東京、2023年）。グループ展に「神戸六甲ミーツ・アート2025 Beyond」（2025）など。「KYOTO EXPERIMENT2025『Echoes Now』」では、ライブパフォーマンス《SOFTBOYS~だってまだまだ今来たばっか!~》を披露した。

倉知朋之介 《SOFTBOYS》2025
シンクロ化されたビデオ 17分50秒



張嘉原 《影の余韻》2023
インスタレーション 写真、積み木、サイコロ サイズ可変



企画 川合匠 デザイン 中家寿之
アートディレクション 青藤風沙

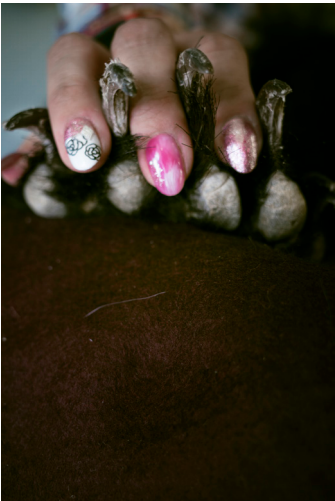
張嘉原

1995年中国遼寧省生まれ。京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（博士課程）在籍中。写真、映像、アーカイブ的アートを軸に制作と研究を行っている。家族の歴史に対する関心と愛情を出発点とし、個人的な記憶や断片的な資料を手がかりに、時間や継承、語られなかった物語のあり方を探ってきた。修士課程では家族アルバムや私的な写真資料を用い、写真やインスタレーションを通して、個人史がいかに保存され、変容し、他者へ伝達されるのかを問い続けてきた。現在は、これまでの私的実践を基盤としながら、関心をより社会的・集団的な領域へと拡張している。個人の記憶が社会的なイメージや歴史の構造とどのように交差し、共有されていくのかに着目し、写真や映像を「記録」ではなく、思考と関係生成の場として位置づけ直している。張嘉原にとって、アーカイブ・アートの制作とは、完成された過去を提示する行為ではなく、問いを立て続けるための継続的なプロセスであり、発見に終わりはなく、更新と再解釈のなかで表現もまた変化し続けていく。「DOUBLE ANNUAL 2024」（国立新美術館、東京、2024）出品、「京都芸術大学大学院2024年度修了展」優秀賞。

趙彤陽

1997年中国山東省生まれ。京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（博士課程）在籍中。写真、映像、インスタレーションを横断的な表現媒体とし、身体とメディアの相関性を一貫した主題として活動を展開している。作品制作の出発点は常に自らの身体的経験に置かれ、身体・芸術・技術が交差する独自の美学的枠組みの構築を目指す。近年は特にAIの介入による芸術制作を背景に、身体経験の希薄化や労働の疎外、現代社会における感覚および欲望の変容といった諸問題に着目している。現在は博士課程にて研究と制作を深化させており、理論と実践の両面から現代における「身体の内面性」を問い続けている。国内外の主要な美術館やアートプロジェクトでの展示に加え、舞台芸術や映画制作への参画など、その活動領域は多岐にわたる。主な展覧会に「DOUBLE ANNUAL」（国立新美術館、2023、2024）、「東京丸の内アートアワード（AATM）2024」（行幸地下ギャラリー、2024）、「北京ファッションウィークSS2026」（北京国家会議センター、2025）など。アーティスト・イン・レジデンス「大地の書」参加（四川省資陽市、2025）、2025年度日本文化芸術奨学金（日本文化芸術財団）奨学生選出。

趙彤陽 《優しい鏡》2022-2023
写真、サイコロ、サイコロ サイズ可変

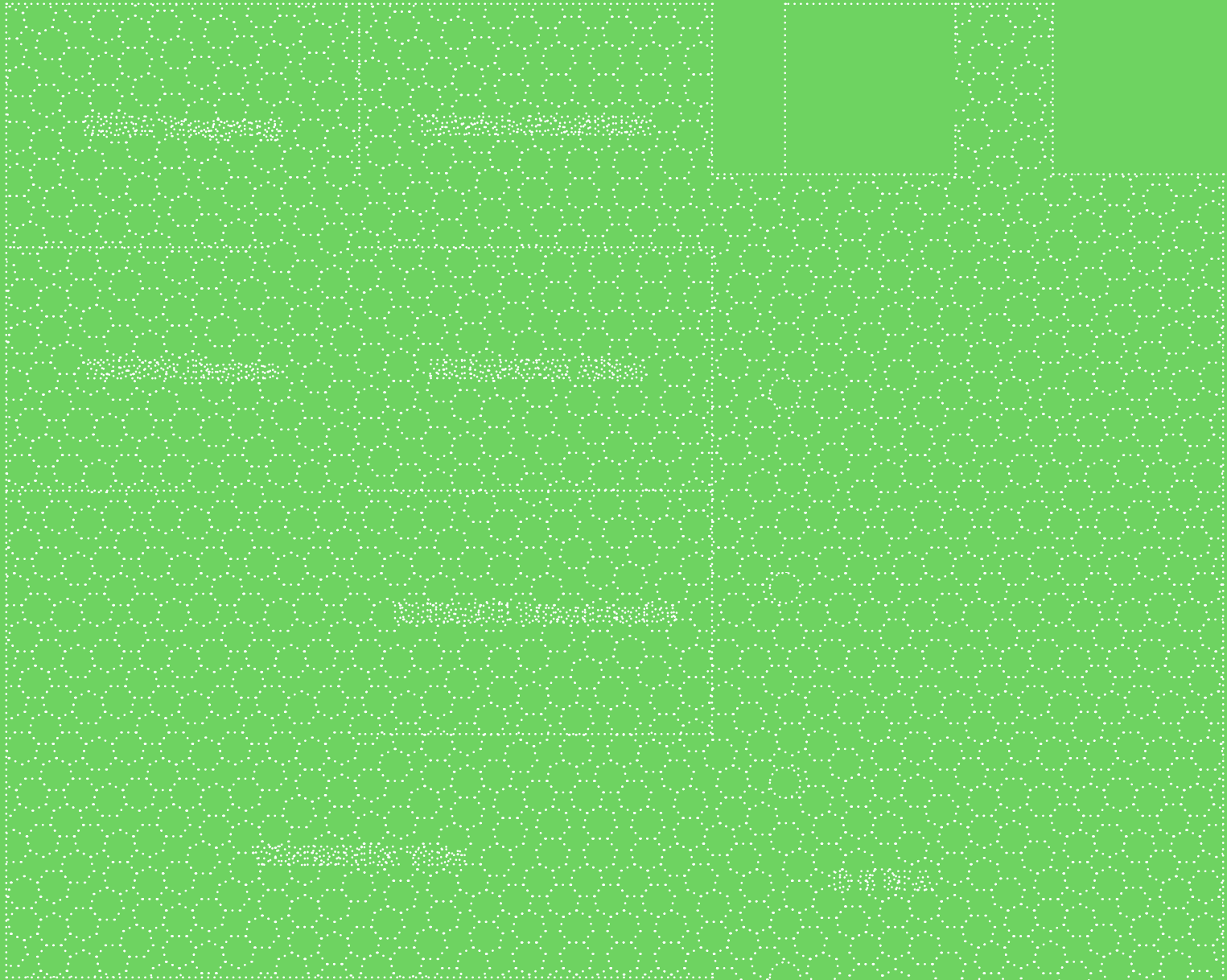


初代初代 《Mood Hall》2019
映画（DCP）33分33秒



カワイカム

カワイカムは、1993年に川合匠（1968年大阪市生まれ）と岡村寛生（1968年京都市生まれ）により結成されたアートユニット、映像作家。2000年頃よりアニメーションを主とする映像作品を国内外の展覧会と映画祭で発表している。京都市立芸術大学大学院美術研究科在学中に共同制作を開始（川合は彫刻、岡村は油画を専攻、1994年修了）。初の映像作品《オール・ザ・リイン・ヤン》（1997）は、展覧会「どないやねん-現代日本の創造力-Donai yanen! Et maintenant!」（エール・デ・セーブル、パリ、1998）にも出品された。《コロンブス Columbus》（2012）はロカルノ国際映画祭（スイス、2012）でのワールドプレミアを経て、クラクワ国際映画祭（ポーランド、2013）国際短編アニメーション最高賞、アムステルダム・フェスティバル2014（オーストリア）コンピュータアニメーション/映画/VFX部門栄誉賞を受賞した。2016年、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで個展「ムード・ホール」を開催、のちに再構成された3DCG中編アニメーション映画《ムード・ホール Mood Hall》（2019）はANIMATO国際アニメーション映画祭（スイス、2019）エキスポリメンタル部門最高賞を受賞した。二人は京都芸術大学芸術学部情報デザイン学科教授。



Pre-X: Before we knew what to call it
Pre-X: Before we knew what to call it
Pre-X: Before we knew what to call it

のちの_____である Pre-X: Before we knew what to call it

アーティスト REMA 米村優人 倉知朋之介 張嘉原 趙彤陽 加々木

2026年4月1日(水)-19日(日) 10時-17時(17日(金)のみ19時まで) 会期中無休

Galerie Aube 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都芸術大学瓜生山キャンパス人間館

主催 京都芸術大学 運営 ギャラリー・オブ運営委員会 お問い合わせ先 京都芸術大学フューチャ・オフィス教学支援一課 ☎075-791-9122(代)

<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/>

アーティスト・ク 4月17日(金) 18時-



学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学